圃場での作業中に熱中症になる

その他ー４

発生月日　時	9月4日（火）11時00分			工事内容	圃場整備工事（整地工、暗渠排水工、客土工、農道工一式）	
被災者	職種	土工	経験年	1月	所属	一次下請け
被災程度	熱中症（一過性痙攣発作）					

災害発生時記録

災害発生状況（写真）

当日は、暗渠管を布設する作業を行っていた。
被災者は暗渠管を人力で小運搬している最中に意識がもうろうとなり、手足の痙攣で自力歩行が困難になった。
尚、その日は気温は26℃とそれほど高くはなかったが湿度が約70％あり更に被災した時間帯には気温28℃、
湿度75％に上昇していた。
また、被災者は睡眠不足で体調があまり良くなかったが経験が浅かったせいもあり、その事を伝えることも
出来ずに作業に従事した。

初期の対策状況含む事項(写真含)

被災者は自力で水分を補給することが出来なかったので休憩室で休ませ、常備していた
熱中症キットを使用して体を冷やした。
被災者は翌日休んだだけで通常作業に就いた。（休業1日災害で処理）
尚、被災者は身長180cm、体重100kgでメタボ体型であった。

飲料水をスポーツドリンクに変更

簡易休息施設
近場に設置

熱中症計を
携帯

番号	災害発生要因	人的要因	物的要因	管理的要因	同種工事の再発防止対策	コメント（追記・確認すべき事項）
1	温度、湿度計等を掲示していたが作業場所から遠く、逐次確認する ことが出来なかったこと			○	1．作業責任者に携帯用熱中症計を持たせ逐次、作業環境を 確認できるようにした。	気温26℃、湿度70％ではWBGT値が25で警戒 レベルでありその後、気温28℃、湿度75％で WBGT値が28と厳重警戒レベルとなり熱中症リスク が高い状態であった。また、被災者は手足の痙攣、 自力歩行及び自力水分補給が困難なことから 重症（Ⅲ度）であり、医療機関への搬送が必要な 状態だったと思われる。
2	被災者は経験が浅く熱中症に対して危険認識が低かったこと	◎			2．関係者全員に熱中症に関する教育を実施すると共に新規入場者 教育でも熱中症に関する教育を実施する。	
3	作業場所が休憩施設から非常に遠く、塩分などの補給が容易に 行えなかったこと		◎		3、4．作業場所に簡易休憩施設を設け、スポーツドリンクや 塩飴を常備した。	
4	作業場所に日陰となる部分がなかったこと		○			

調査記入時の注意点ーー①　所属欄は5項目の該当する項目に○マークの記入　　②3要因(人的･物的･管理的)に関係･該当する要因に○ー重要要因と思われる事項に◎を記入してください。（添付要因資料参照）